



Title	Models of Economic Growth Status—Seeking Behavior
Author(s)	川元, 康一
Citation	大阪大学, 2008, 博士論文
Version Type	
URL	https://hdl.handle.net/11094/49067
rights	
Note	著者からインターネット公開の許諾が得られていないため、論文の要旨のみを公開しています。全文のご利用をご希望の場合は、大阪大学の博士論文についてをご参照ください。

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

The University of Osaka

氏 名	川 元 康 一
博士の専攻分野の名称	博 士（経済学）
学 位 記 番 号	第 2 1 7 3 1 号
学 位 授 与 年 月 日	平成 20 年 3 月 25 日
学 位 授 与 の 要 件	学位規則第 4 条第 1 項該当 経済学研究科経済学専攻
学 位 論 文 名	Models of Economic Growth Status-Seeking Behavior (社会的地位選考と経済成長)
論 文 審 査 委 員	(主査) 教 授 二神 孝一 (副査) 教 授 三野 和雄 教 授 池田 新介

論 文 内 容 の 要 旨

本博士論文は、経済主体の効用が人的資本保有量や所得水準の他者との相対比較に依存するという想定、すなわち社会的地位選好が経済成長、資源配分の効率性、及び所得分配に与える影響を分析している。

Chapter 1 では、近年のマクロ経済学における社会的地位選好の研究を概観し、また本博士論文の概要を述べる。

Chapter 2 では、人的資本保有量についての他者との相対比較への関心（学歴志向）を個人が持つ設定の世代重複モデルを分析する。人的資本に基づく社会的地位選好の存在は、同世代内で負の外部性が存在することを意味し、これは過剰な人的資本蓄積の要因となる。一方で、人的資本蓄積は、将来世代の人的資本の生産に対して正の外部効果を持つ。社会厚生関数を最大化する資源配分が市場経済で達成されるような最適課税政策を導出し、最適賃金課税の符号を調べることで、これら 2 種類の外部性が互いに相殺しあう可能性があることが示される。

Chapter 3 では、社会的地位選好と人的資本外部性の関係を、無限視野を持つ個人で構成される宇沢—ルーカス型モデルで分析する。社会的地位選好の存在の下では、時間を通じて一定率の労働賃金課税は資源配分に対して中立ではなくなるということが示される。また、平均人的資本が生産に対して持つ外部性と社会的地位選好の相対的強弱により、最適な課税政策の符号が正とも負ともなりうることが示される。

Chapter 4 では、社会的地位選好の存在する宇沢—ルーカス型モデルを、財生産における人的資本外部性が部門特殊なものである場合に拡張する。人的資本保有量に基づく社会的地位選好が存在する下では、人的資本の財生産に対する部門特殊的外部性は地位選好に起因する過剰な人的資本蓄積を促進してしまう、ということが示される。

Chapter 5 では、平均所得への関心という形でモデル化された社会的地位選好が、経済の所得分配に対して持つ影響を分析する。社会的地位選好の存在により、平均所得の増加が各個人の社会的地位からの限界効用を増加させる場合と減少させる場合が考えられるが、この意味での外部効果の符号によって地位選好が所得不平等を縮小させるか拡大させるかが決定されるということが示される。また、主体間で選好が異質な場合に分析を拡張し、一部の主体の地位願望の強度が経済成長を減速させてしまう可能性があることが示される。

論文審査の結果の要旨

本研究は社会的な地位選好をモデルに組み込み、この外部性が成長過程に与える影響とそれを補正する課税政策についてオリジナリティのある分析をしている。さらに異質な個人が存在を考慮して社会的な地位選好が不平等にどのような影響を与えるかについての分析を行っている。異質性をモデルに導入すると分析が困難になるにもかかわらず非常に優れた分析を行っている。以上から、博士（経済学）に十分に値すると判断する。